

札幌市精神障がいにも対応した 地域包括ケアシステム検討会 活動報告書(令和3～6年度)

「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」(通称：にも包括)とは、精神障がいの有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加(就労など)、地域の助け合い、普及啓発(教育など)が包括的に確保されたシステムのこと。

2025年5月15日

札幌市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討会

札幌市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討会委員名簿

令和 6年 6月現在
(敬称略)

	分野	区分	所属	役職	委員氏名
○	医療	精神科病院	医療法人五風会 さっぽろ香雪病院	地域連携支援室 室長	尾形 多佳士
	医療	精神科病院	医療法人五風会 さっぽろ香雪病院	副看護部長	那須 典政
	医療	診療所	かんわ心療クリニック	精神保健福祉士	前田 和哉
	相談支援	委託相談支援事業所	社会福祉法人札幌療育会 相談支援事業所ノック	所長	荒川 倫代
	相談支援	基幹相談支援センター	社会福祉法人あむ さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール	センター長	林 健一
	居住支援	共同生活援助(GH)	株式会社みやびん	代表取締役	田中 雅人
	居住支援	住宅確保要配慮者居住支援法人	社会福祉法人えぼっく	理事長	松坂 優
	地域福祉	社会福祉協議会	社会福祉法人札幌市社会福祉協議会	地域福祉課長	高木 啓太
	高齢福祉	地域包括支援センター	社会福祉法人札幌市社会福祉協議会 札幌市東区第1地域包括支援センター	センター長	松本 美子
	当事者	当事者団体	札幌市精神障害者回復者クラブ連合会	会長	石山 貴博
	家族	家族会	特定非営利活動法人札幌市精神障害者家族連合会	会長	菅原 悦子
◎	学識	学識経験者	北星学園大学 社会福祉学部	教授	永井 順子
	専門機関	札幌市	保健福祉局 障がい保健福祉部	精神保健担当部長	鎌田 隼輔
	事務局	札幌市	保健福祉局 障がい保健福祉部 障がい福祉課	企画調整担当課長	高松 幸一
	事務局	札幌市	保健福祉局 障がい保健福祉部 障がい福祉課	個別支援担当係長	品川 匡弘
	事務局	札幌市	保健福祉局 障がい保健福祉部 障がい福祉課	精神保健・医療福祉係長	銭谷 昌平
	事務局	札幌市	保健福祉局 障がい保健福祉部 精神保健福祉センター	相談支援係長	清水川 靖子

◎は会長、○は副会長

I. 活動の経過

- ・令和3年3月に、関係機関が情報を共有し、精神障がい者の退院促進や安定した地域生活の支援体制等について検討することを目的に設置。
※委員構成は医療関係、相談支援事業所、共同生活援助、社会福祉協議会、地域包括支援センター、当事者、家族会、学識者、行政。
- ・令和5年度、6年度は委託相談支援事業所、地域包括支援センター、区役所を対象に精神障がいに起因すると考えられる対応困難事例を募集し、5回の事例検討を実施。
- ・令和7年3月までに13回の検討会を実施し、札幌市の抱える問題や、取り組みの方向性などを討論。
- ・区単位などの活動も模索し、検討会委員が2名いる清田区にて自立支援協議会の精神部会とタイアップした形でモデル研修会を2025年3月11日に実施。

検討会会議開催状況一覧

回	開催日時	主な議題
第1回	令和3年9月21日 18時30分～21時	検討会の役割について 今後の進め方 など
第2回	令和4年3月17日 18時～20時	検討会の運営について 事例検討・報告 など
第3回	令和4年4月11日 18時～20時	事例検討・報告 課題整理 など
第4回	令和4年12月15日 18時～20時	これまでの振り返り 今後の検討会について議論
第5回	令和5年3月30日 18時～20時	事例検討の募集法、検討手法を議論
第6回	令和5年6月6日 18時30分～20時30分	事例検討で使用する様式や期間等の詳細 設置要綱を改訂 など
第7回	令和5年9月26日 18時30分～20時30分	応募のあった事例の内容確認 検討体制や日時等を決定
第8回	令和5年12月26日 18時30分～20時30分	実施した事例検討の内容を共有 得られた意見等から、今後の取組を検討
第9回	令和6年3月13日 18時～20時	入院者訪問支援事業に関して 次年度の取り組みについて議論 など
第10回	令和6年6月14日 10時～12時	事例検討の取組を見直し 入院者訪問支援事業推進会議の委員選出 など
第11回	令和6年10月3日 18時～20時	事例検討実施の詳細 検討会の方針確認
第12回	令和7年1月27日 18時30分～20時30分	事例検討の振り返り 研修会実施に向けて
第13回	令和7年3月21日 18時～20時	今後の検討会について モデル研修会の振り返り

II. 各年度の活動

(1) 2022年度：札幌市にも包括検討会で取り組むべき課題の抽出

①国の「構築事業メニュー」に照らした札幌市の検討課題の抽出

構築事業メニュー	検討課題
普及啓発	精神障がいや精神疾患に対する理解促進、精神障がい者への偏見・差別がない社会づくり 若年層への精神疾患の理解を普及するための教育 相談先の複雑化や情報へのアクセスの難しさの解消 地域の受け入れや社会参加可能な地域づくりによる住民理解の促進
家族支援	未受診や治療中断の患者を持つ家族の精神科受診への理解促進 親の高齢化に対応した当事者の自立
住まいの確保	賃貸住宅を借りられずグループホームに入居となっている現状の改善 グループホームの支援力と採算との両立 グループホームと医療との連携強化
ピアサポートの活用	ピアサポーターの地域移行支援への積極的な関わり ピアサポーターのマッチング
アウトリーチ支援	地域援助事業者と主治医の連携の重要性 関係機関が連携してチームにより個別支援を行うためのマネジメントシステムの必要性 医療・福祉・介護・地域の連携や役割分担の明確化（連携コスト軽減策を講じる必要も）
精神医療相談	地域生活における病状悪化時の精神科病院との連携
医療連携体制の構築	高齢化により身体的機能が低下している精神障がい者に対する医療連携体制（訪問看護ステーションとの連携）
関係職員への研修	各分野の関係者におけるにも包括に対する理解促進
入院中患者への地域生活支援（地域移行）	地域移行支援制度（個別給付）の活用への理解促進 地域生活におけるホームヘルプサービスの質の向上 受け皿があるにもかかわらず長期入院となってしまう状況の解消 連携の必要性を感じていない病院への理解促進（病院の敷居の高さ、事業所のアピール力向上の必要性） 身体機能が低下した人の退院支援

②検討課題の具体化のため事例検討を実施（表中の赤字に着目しつつ）

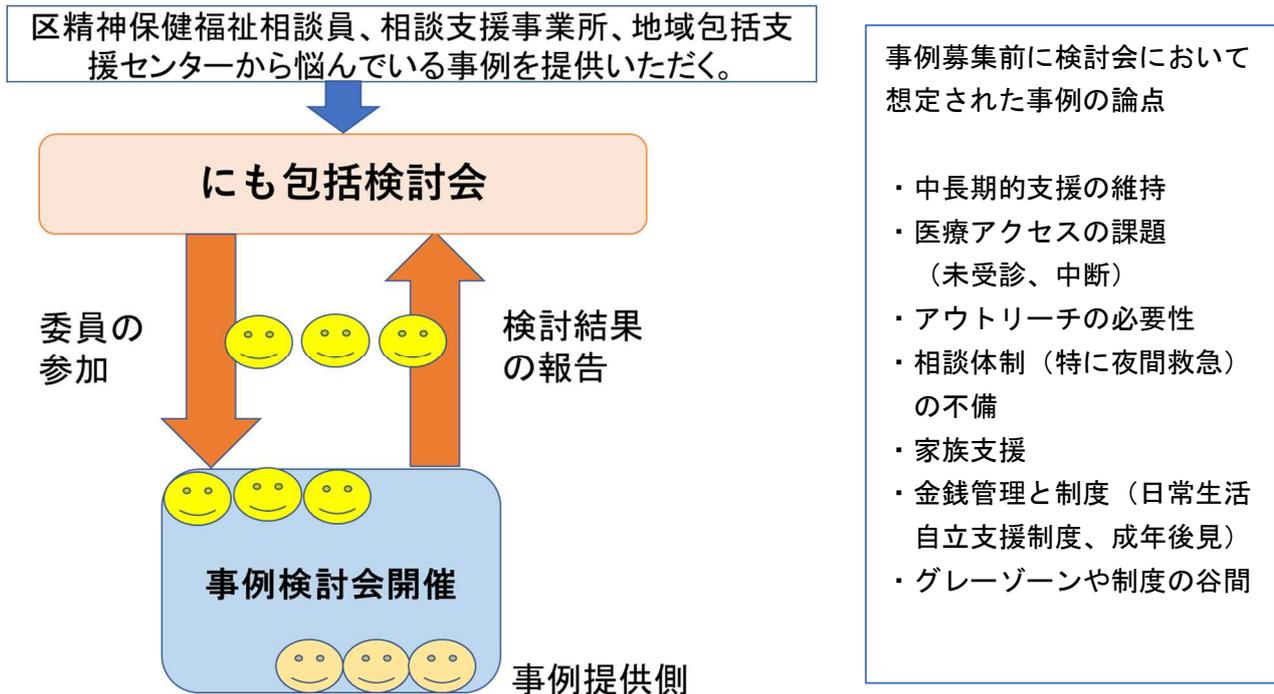
事例等	論点
相談支援	ピアサポーターによる支援の重要性、活用方法。身体機能低下と精神疾患を併合した人向けの住居の不足、医師の理解や訪問看護との連携の重要性。
共同生活援助	医療機関、SW、就労支援事業所、相談所の連携。診察前に生活状況報告書を医師へ提出。関係者の個々の繋がりやの構築の必要性。
札幌市	障がい福祉課、精神保健福祉センターの事業における、精神障がいの普及啓発、理解促進の取組の確認とさらなる周知の必要性。

札幌市の傾向

- 資源はあるがつながり、マッチングは不十分
- 地域援助事業者や高齢分野の事業者などが精神科医療になじみにくさや敷居の高さを感じていることもある
- 「できている」ところのノウハウが汎化されにくい

この点をバックアップする体制が必要では？

(2) 2023～2024 年度：事例収集と事例検討：バックアップ体制の試行とさらなる課題抽出を目指して



事例募集時の例示

精神障がいに関連すると考えられる、以下のような事例（診断必須ではありません）

- ・適切な医療につながっていない
- ・8050 問題、ひきこもり
- ・本人の受診情報が家族に共有されておらず、家族が対応に困っている
- ・家族が地域で孤立し、精神疾患を持つ子から親への虐待、暴力のリスクがある
- ・生活上の困りごとが多いものの、支援に至っていない
- ・地域生活に必要な支援につながらず、困っている（入退院を繰り返す、入院が長期化している、生活が不安定など）
- ・家族の中で複数名が病気や障がいをもっており、支援が行き届いていない

※以上は例示です。その他困っている事例があればご相談ください。

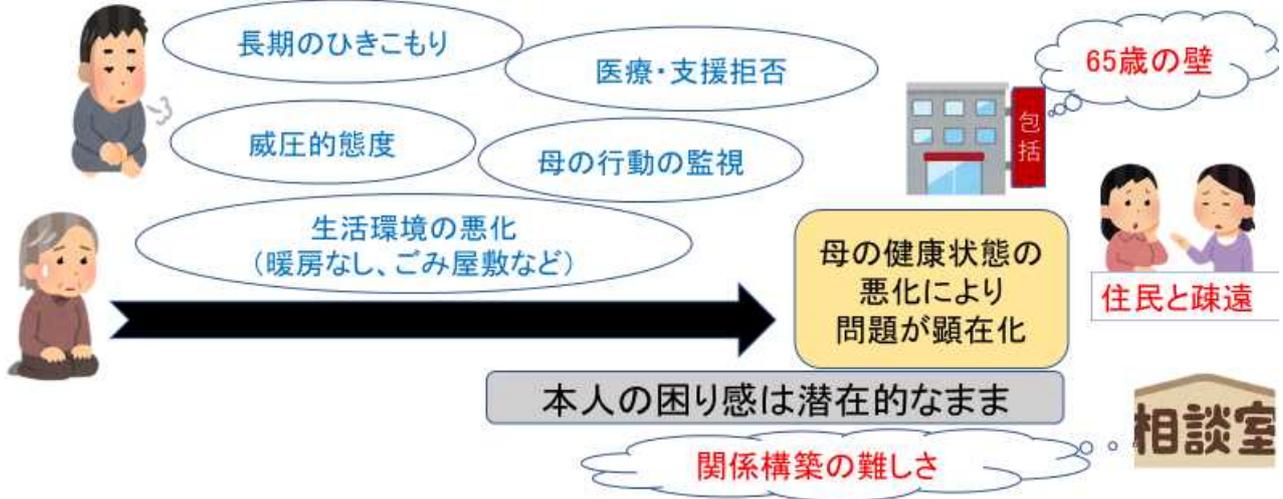
※事例提供は本人同意を原則とし、「個人情報使用同意書」を作成。

ただし、家族等の事情に応じて柔軟に対応。

※検討チームは守秘義務を厳守。結果として、本検討会の議事録を非公開に。

○札幌市にも包括事例検討を通して得られた、包括的支援を必要とするモデル事例

中年期の男性。精神科診断がないか、あっても医療拒否。
世帯で孤立。母親が我慢して生活を維持(その意味では安定)。



事例検討＝状況の打開に向けたアイデアの持ち寄り

本人のアセスメント	環境への働きかけ① 母を動かす	環境への働きかけ② 味方を増やす
<ul style="list-style-type: none"> ・現状の緊急度は？ ・精神疾患以外に知的／発達障害の可能性は？ ・本人の困りごとは何か？ 身体疾患はないか？ 世帯の経済状況は？ ⇒本人が支援につながる動機を探す。 ・本人の楽しみは何か？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・母が地域包括の支援を受ける。 ・世帯分離し、母が施設入所することも一つの手段。 ・親が一旦家を離れることで本人が困り、支援につながるきっかけをつくる。 ・母が子との共依存関係を脱却できるよう、家族以外の人間関係(家族会の相談など)をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括は「障害の疑い」のレベルでも障害者相談支援事業所に相談してよい。 ・本人の困りごとに寄り添う支援体制を構築する。 ・相談支援事業所は本人の楽しみを活用した孤立解消方法を考える。 ・世帯の状況を俯瞰で見、緊急性が高くなければ見守る支援をする。

身近な地域単位で事例検討を実施できる体制があるとよい

○上記以外の、事例検討の過程における委員の意見（一部抜粋）

<本人のエンパワーメント>

- ・薬物依存を脱するためには、就労支援や運転免許取得支援も有効ではないか。
- ・本人の好きなことや必要なことを活かした活動機会の提案は、相談支援事業所との信頼関係形成や、本人の外出を促す可能性がある。
- ・同一法人の支援機関で住まいや医療も担いながら、長期にわたり本人の課題が解決しない場合には、居住地を変え、広域で支援を行うことも一案かもしれない。
- ・恋愛相談など、インフォーマルなことも相談できる場所づくりがないと、当事者の地域生活支援としては不十分。
- ・医療機関と地域機関とで支援方針を共有するためにも、本人が信頼できる地域の支援者が通院同行することは効果的ではないか。

<家族支援>

- ・地域包括支援センター内で、本人と家族の担当者を分けることは、両者の利害が一致しない場合もあるため、それぞれと信頼関係を築きやすい可能性がある。1人のスタッフが抱え込まないメリットもある。
- ・ひきこもり支援の枠組みを利用して、母親を支援機関につなぐことができるのではないか。
- ・世帯分離や別居、親の施設入所等も一つの手段として考えることが必要。
- ・精神科への家族のレスパイト入院も今後の選択肢にできるとよいかもかもしれない。

<支援者支援>

- ・地域包括支援センターが使用できる、相談支援事業所につなぐためのチェックリストがあるとよい。
- ・医療につながっていない地域機関の事例への医療的視点からのアドバイスが得られる体制づくりが、札幌市であるとよいのではないか（にも包括検討会の役割？）。
- ・ケースに応じた利用可能な資源のリストアップをできるとよいのでは。
- ・ごみ屋敷支援の成功例の蓄積がまだない。蓄積により、効果的な支援方法を見出していく必要がある。

<市や制度の課題>

- ・札幌市においては事業所数が多いゆえの連携の難しさがある。
- ・生活訓練事業所が少ないため、ニーズがあっても対応できていない。
- ・近年の課題として、スマートホン利用者の金銭管理の難しさがあり、既存の制度が追い付いていない。
- ・地域相談員の役割の周知が充分でないため、早急に周知を進めるべき。
- ・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムについての周知も必要。
- ・ピアサポーターによる支援の有用性は確かだが、量と質の両面で充実させていく必要もある。
- ・一事業所のみで長期に支援を継続することには限界（支援者の交代など）があるため、複数の事業所による支援の体制をつくることができるとよい。
- ・ひきこもりやごみ屋敷については、専門職のみで解決ではなく、地域住民の方にも関わっていただくことが地域の福祉力の向上につながる。
- ・区の精神保健福祉相談員の支援力を向上させる体制づくりも必要。

Ⅲ. モデル研修会の実施

検討会での討論や事例検討を通じ、精神障がい者の支援は現在、複合的な課題にアプローチしなくてはならないケースが増加していることを再確認した。他方で、医療と障害、障害と高齢など、他領域の支援者間で互いの業務内容への理解が不足する点があり、ケースの課題解決に向けた効果的な連携や、役割分担が十分に進んでいないことが主な課題として明らかになった。

札幌市の規模で、地域単位の連携体制構築等に取り組むには、会議体が一つでは調整等に多大な時間を要するため、小さな単位の会議体によるネットワーク構築ができることが望ましいという結論に至った。そのため、例えば各区の自立支援協議会地域部会を中心に、連携の可能性も探ってみるべきと考え、まずは、検討会委員が2名いる清田区にて自立支援協議会の精神部会とタイアップした形でモデル研修会を2025年3月11日に実施した。

研修会タイトル：令和6年度札幌市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムモデル研修会
清田区地域部会こころのチーム共催

日時：令和7年3月11日（火） 18時～20時

会場：清田区役所3階 大会議室 参加費：無料

開催趣旨：「にも包括」の基本概念から札幌市の取り組みまで幅広く学ぶことができる機会とする。

内容：

第一部～講演～

- ・精神保健福祉法の改正について 札幌市障がい福祉課 精神保健・医療福祉係長 銭谷 昌平
- ・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムとは
札幌市にも包括検討会副会長 尾形 多佳士
- ・札幌市における精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討会の取り組み
札幌市にも包括検討会会長 永井 順子

第二部～グループワーク～

自己紹介、精神保健医療福祉に関する関係機関との連携の困りごと、精神保健医療福祉に関する関係機関との連携を深めるための方策について、意見交換。

グループワークで出された意見（一部抜粋）

- ・にも包括のモデル事例のようなことはよくあり、1事業所が抱えてしまいがち。連携が目的なのだが、難しいケースを持ってきたと思われ、門前払いを受けることもある。
- ・札幌は資源が多過ぎて選びづらい。病院が多く、毎回連携をゼロから開始しなければいけないところが多い。地域では事業所の増加や職員の交代も多く、厚みのある連携を形成しにくい。
- ・精神科の受診予約が困難。病院の敷居が高いと感じている人は多い。
- ・精神障害のある人の、障害から高齢への移行期の支援体制には課題がある。
- ・制度の谷間にいる人たちの支援ニーズはある。
- ・一般科のソーシャルワーカーとの連携が取りづらい（守秘義務や秘密保持を理由に情報提供や情報共有が困難）。
- ・一般診療科などにおいて精神障害への理解の不十分さがある。
- ・精神科に入院すると、他の支援者（ケアマネなど）が病院まかせになることがある。

令和6年度にも包括モデル研修会 アンケート集計

職種	精神科 病院	訪問看護	地域包括支援 センター	グループホーム	相談支援事業所	行政
	10	7	6	4	8	1

医療・福祉の 経験年数	1年～3年未満	3年～10年未満	10年以上
	3	7	26

講義(1)「精神保健福祉法の改正について」

よく理解できた	理解できた	あまり理解できな かった	理解できなかった
20	14	2	0

意見・感想

- ・とてもわかりやすい説明、資料でした
- ・市町村の相談支援を知ることができた
- ・具体的なイメージができた
- ・精神科領域の支援層の幅が広がったことを知り、まだ支援や治療を受けられていない方々の力になれるよう、努力したいと感じた
- ・PSWは理解しているものの、Drやその他職種の理解が浅いのが課題と感じる

講義(2)「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムとは」

よく理解できた	理解できた	あまり理解できな かった	理解できなかった
18	18	0	0

意見・感想

- ・連携先が不明なこともあるので、明確化して欲しい
- ・高齢分野だけでなく、精神も含め共生社会の推進に努めていくことが必要と感じた
- ・知らないこともあり、とてもためになった
- ・名前だけ知っていた「にも包括」の理解を深めることができた
- ・「にも」の意味が理解出来ました
- ・今後も理解を深め、実務に活かしていきたい
- ・20分でわかる「にも包括」でした

講義(3)「札幌市における精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討会の取り組み」

よく理解できた	理解できた	あまり理解できな かった	理解できなかった
15	21	0	0

意見・感想

- ・よくまとめられていて、これまでの取り組みを知ることができた
- ・札幌市はにも包括がすすんでいるということがわかった
- ・事例検討を行う際、当事者の承諾を得ることを取り入れているのは大切な視点
- ・にも包括と自立支援協議会、その他の専門分野で重なる部分はどう整理するのが気になった
- ・どのような立場の人が携わっているのかを知れた
- ・医療と地域の連携、事業者のマッチングには課題が多いと感じた
- ・検討会で出ていた事例は、地域で実際にあるあると感じながら聞いていました
- ・議事録を読みたい

グループワークについての感想・意見

- ・事前にテーマが分かっていたら話す内容も変わったのでは
- ・にも包括を学ぶ機会になった
- ・困りごとや相談ができ、地域の繋がりができてよい機会でした
- ・多職種間の連携を図る仕組みが必要と感じる。ICTの活用で情報収集ができれば良い
- ・精神疾患のある人の見方、本人の幸せについて考える機会になった
- ・普段関わる機会の少ない他機関の皆様とお話しできて、勉強になりました
- ・顔が見える関係が大事なので、こういった研修に参加を続けたい
- ・各事業所で困っていることがあると知った
- ・にも包括の充実には、本人を取り巻く環境や他機関とのスムーズな連携が必要と感じた
- ・時間が足りなかった、あっという間だった
- ・他職種、他機関の現在進行形の課題を聞いて有意義だった
- ・GHの立場で参加したが、全国的なGHの現状を知ってもらうことができた
- ・「にも包括」と聞くと少し構えてしまうけど、それぞれが日々取り組んで、全体で支え、こういった場で共有し活かすことが大切だと思った
- ・清田区は精神病院が2件あり、モデル区として進んでいけると良いと思った
- ・日頃から知っている人も多く、和やかなGWでした。こういう連携が「にも」に大切で、広げていければ良いと感じました
- ・多職種で意見交換ができ、とても有意義だった
- ・このようなGWが地域包括ケアシステムを強化していくのではないのでしょうか
- ・知らなかっただけで、着実にネットワークが形成されていると感じた

全体についての感想・意見

- ・今後も同様の研修があれば参加したい
- ・困っていることを話すことで、少し違った考えが浮かんでよかった
- ・精神科と一般科との隔たりが大きいと感じる
- ・医療になかなか繋がらない人のアプローチについての研修を希望
- ・継続的にこのような取り組みをしてもらいたい
- ・精神領域で尽力している人の多さに驚きました
- ・精神と高齢分野で顔の見える機会があると、より一層の連携に繋がるので実施を希望
- ・受診拒否している精神症状のある人を、如何に医療に繋げるかの引き出しを増やしたい
- ・名寄市のICT活用や「バイタルリンク」が参考になるのでは
- ・精神に関わっていない方々にも研修出来たらよい
- ・他の区でも実施してもらいたい